

第6回 寝屋川市水道事業ビジョン審議会会議録

1 日時

令和8年1月21日（水）午後3時00分～午後3時40分

2 場所

上下水道局3階 北側会議室

3 出席者

（委員）※ 名簿順

惣田 訓、浅田 安廣、古田 尚央、村上 順一、北川 健治、中山 恵子
掛川 博夫、北野 紀美子、谷本 雅洋、田中 英子、林田 真依

11人（全11人） ※うち1名は途中から出席

（事務局）

妹尾上下水道事業管理者職務代理者、山下経営総務課長、
九條経営総務課課長、高屋水道事業課長、辻経営総務課長代理兼係長、小畑
（策定支援業務受託者）

株式会社三水コンサルタント 木村 昌弘、米谷 直晃

4 次第

- (1) パブリック・コメント手続結果について
- (2) 用語解説について
- (3) その他

5 配布資料

- ・ 資料14 パブリック・コメント手続結果
- ・ 資料15 附属資料 用語解説(案)

(会長)

ただいまより第6回寝屋川市水道事業ビジョン審議会を開催させていただきます。

本日は御多忙の中、御出席いただきましてありがとうございます。今日は委員11名のうち、10名の出席をいただいております。したがって、寝屋川市水道事業ビジョン審議会規程第6条第2項の規定により、本日の会議は成立いたしますので、これより第6回寝屋川市水道事業ビジョン審議会を開催させていただきます。

それでは、早速本日の議題です。案件1、パブリック・コメント手続結果についてです。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料14のパブリック・コメント手続結果を御覧ください。

これまで、5回にわたる審議会において御審議いただいたビジョンの素案につきまして、12月1日から1月9日までの約1か月間、パブリック・コメント手続を実施いたしました。その結果、提出された意見はございませんでしたので御報告させていただきます。

(会長)

ただいま、パブリック・コメントの手続に意見の提出がなかったとの報告がありました。特に御意見、御質問など、ありませんでしょうか。

無ければ、案件2の附属資料用語解説（案）について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

ビジョンの巻末に掲載する附属資料の用語解説（案）につきまして御説明いたします。お手元の資料15、また本日御持参をお願いしておりましたパブリック・コメント手続前のビジョン（案）を併せて御覧いただきたいと思います。

資料15につきましては、掲載予定の用語とその解説の案でございます。この資料ではページ順に並べておりますが、実際の掲載に当たりましては五十音順

としまして、各用語が初めて出てくるページも併せて掲載することを考えております。項目につきましては、一定御審議の中でいただいたもの等も含めまして記載をさせていただいておりますが、解説の部分につきましては現在精査を行っている途中のものでございまして、今後、表現等を変更させていただく可能性もございますので、よろしく願いいたします。

また、水道に関する用語以外の用語につきましても、できる限り広く掲載する予定としております。

（委員 1 名が到着）

（会長）

これで委員 11 名が揃いました。

ただいま、用語解説（案）の説明がありました。少し時間を取りますので、ビジョン（案）も見ながら他に追加すべき用語がないかなど確認をしていただきたいと思えます。

（委員）

用語解説（案）について、気になるところをいくつか述べさせていただきます。

まずは 1 ページです。「老朽水道管」のところで、「破裂」という言葉が使われていることに引っかかります。馴染まないと思います。鋼管だったら圧力がかかると裂けるようなイメージがあるんですが、鋳鉄管、鋳物に関しては折れたり割れたりするんです。裂けるイメージはないんです。

次に、「花こう岩」についてです。ここでは平仮名で書かれていますが、ビジョン（案）の 5 ページの図 2-2 では漢字で書かれています。ですから、括弧で漢字も書いてほしいと思えます。

2 ページの「受水」というところ。「水道用水供給事業」と書いてますが、「者」を入れて「事業者」とすべきだと思います。同ページの「受水池」、「受水管」、3 ページの「受水費」も同様です。

それから「配水区」のところです。「水圧、水量、水質」と読点を入れて列挙

しています。この最後の読点を取って、「及び」を入れてほしいです。「水圧、水量及び水質」という形でやってもらいたいです。同様に、同ページの「配水場」の「配水池、及び」の箇所も読点を取っていただきたい。それから5ページの「スマートメーター」の「データの見える化等、」の箇所も読点を取って「及び」と入れてほしいと思います。

それと「自然流下」のところですか。「各家庭にポンプなしで水が自然に流れること」とありますが、私はしっくりいかないです。「ポンプ」ではなくて「ポンプ圧」というような形で書いてもらいたいです。

次に「プレストレストコンクリート造」というところで、「鋼材によって」とあります。鋼材は鋼材で間違いないんですけど、ここは「ピアノ線」にしてほしいと思います。プレストレストコンクリート造は、ピアノ線ということなんです。

4ページの「放射性セシウム」と「放射性ヨウ素」のところですか。「核分裂が起こる際に」とありますが、核分裂は自然発生するので、「起こった」という表現の方が適切だと思います。

最後に、7ページの「鉛製給水管」のところですか。「鉛の溶出」というような形で書いてもらいたいです。「鉛の溶出」ということが大事だと思うんです。

(会長)

事務局から回答をお願いします。

(事務局)

順番に回答させていただきます。

1ページ、「老朽水道管」です。こちらにつきましては、様々な管種を意図して書かせていただいておりますが、管種によっては生じづらいこともありますので、表現の確認をさせていただきたいと思います。

その下、「花こう岩」の「こう」の部分は常用漢字にない漢字ですが、ビジョン（案）の中で漢字表記しておりますので、こちらにつきましては、両方とも併記する形で「崗」の字を入れさせていただきたいと思います。

2ページ、3ページの「受水」等で「水道用水供給事業」と書いているとこ

ろ、相手が事業者であることを前提に書いている表現につきましては、「水道用水供給事業者」という表現にさせていただきたいと思います。

次に「配水区」のところです。「及び」の使い方はおっしゃるとおりかと存じますので、そのように表現を整理させていただきたいと思います。

それから「自然流下」のところです。「ポンプなしで」という表現が分かりづらいというところもございますので、こちらも表現を整理させていただきたいと思います。

続いて「プレストレストコンクリート造」のところにつきましては、鋼材が基本的にピアノ線を指すという御指摘がございましたが、おっしゃる内容を踏まえまして確認をさせていただきたいと思います。

4ページの「放射性セシウム」と「放射性ヨウ素」です。「核分裂が起こる」ではなく「起こった」の方が適切ではないかという御指摘がありましたが、こちらにつきましても御指摘の内容を踏まえまして確認をさせていただきます。

7ページの「鉛製給水管」のところ、鉛が溶出することによって鉛濃度が上がるというところで、「溶出する」というところを書くべきだという御指摘がありましたので、こちらも御指摘を踏まえまして表現の整理をさせていただきたいと思います。

(委員)

2ページの「ポンプ揚程」のところです。書き方が私はしっくりいなくて、「低い位置から高い位置にポンプが水を汲み上げる、汲み上げる高さを示す能力」というような表現に改めてもらいたいなと思います。単位はメートルなんです、圧力ではなくて高さなんです。

(事務局)

御指摘を踏まえまして、表現の確認をさせていただきたいと思います。

(委員)

1ページの「新水道ビジョン」の説明です。一文で最後までつながっているので、どこかで区切った方が読みやすいと思いました。例えば、1行目と最後

の文言をつなげて、「水道を取り巻く環境が大きく変化していることから、平成25年3月に厚生労働省が策定。」で一文。その後、「これまで国民の生活や経済活動」と続いて、最後に「今後、当面の間に取り組むべき事項、方策を提示したもので。」で終わった方が読みやすいのではないかなと思いました。

次に「大阪層群」のところで「新生代第三期末から第四期前期に堆積した」と書かれています。ここだけ見たら分かりづらいと思います。調べたら300万年前から30万年前の期間のようで、何かそういうイメージできるような数字を書いた方がいいと思いました。

それから、「配水池」です。「浄水した水を貯留しておく」とありますが、寝屋川市は浄水を購入しているので、「浄水を貯留しておく」にした方がいいのではないかなと思います。文章としては、「配水するための浄水を貯留しておく機能を持つ施設のこと」とした方がいいと思います。

それと関係して、2ページの「受水」のところで、「浄水を購入すること」となっています。購入したものは浄水というところから始めないと、別の箇所では例えば水道水とか、色々な言い方が出てくるので、ややこしいなと思います。「受水池」のところは「購入した浄水」となっているので、ここはいいんですが、「配水場」のところでは「配水するために浄水した水を貯留する配水池」となっています。既に浄水なので、先ほどの「配水池」と同様に、「浄水を貯留する」とした方がいいと思います。

それから、「送水管」では「浄水場や受水池から配水池に水道水を送る管路」となっています。ここでは「浄水」ではなく「水道水」になっています。それと関連して、「配水管」のところでは、「配水池などから浄水処理した水を各家庭の近くまで送る管」となっています。「水道水」、「浄水処理した水」と、言い方が変わっているので、ここでも「水道水」でいいのではないかなと思います。

続いて、「企業債」です。「地方公営企業が行う」とありますが、「地方公営企業(寝屋川市の場合は市上下水道局)」といったことをここで書いた方がいいのではないかなと思いました。

6ページの「DX」のところでは、「なお、「Transformation」の「Trans」を「X」と略することから「DX」と表す」と書かれています。そのとおりですが、なぜ「X」になるのかが分からないと思いますので、「Trans」を英語圏で

は「X」と略することから「DX」と表す」とした方が分かりやすくなると思います。

最後に、「更新需要」のところですか。文末に「更新に必要な投資額のこと」とあります。これは「額」で合ってますか。それだけ、お聞きしたいです。

(会長)

事務局から順番にお願いします。

(事務局)

まず、「新水道ビジョン」については、国が示す表現そのままですので、文章が長くなっているというところがございます。御指摘いただいたような切り方を含めまして、表現について確認をさせていただきたいと思います。

続きまして、「大阪層群」のところですか。「新生代第三期末から第四期前期」という表現がどのぐらいの時代なのか分かりづらいので、補足を加えさせていただきたいと思います。

その次の19ページ、20ページの「浄水」なのか「水道水」なのかというような表現については、統一できるものであれば統一して、整理をさせていただきたいと思います。

それから、「企業債」の部分です。「地方公営企業」という表現について、「寝屋川市」というべきなのか「寝屋川市の水道」というべきなのか、なかなか難しいところではあるんですが、表現は確認をさせていただければと思います。

6ページの「DX」の部分について、御指摘を踏まえまして、表現の整理をさせていただきたいと思います。

最後に「更新需要」のところですか。こちらにつきましては、一般用語の「更新需要」という言葉と、いわゆるアセットマネジメント等で使う更新需要と両方ございまして、この場合は額のことを指していますので、このとおりの表記で記載させていただきたいと考えております。

(委員)

ビジョン(案)と照らし合わせながら読んだ時に、一体どれが用語解説(案)

にある言葉なのかが分からなくて、下線とか米印だけでもあった方が照らし合わせながら読みやすいんじゃないかなと思いました。難しいなと思う言葉もいっぱいあったんですけど、これは載っているというのが列挙してあった方が読みやすいと思いました。

それから、ルビが全然ないので、何個か読みにくいんじゃないかなと思うような言葉があったので、用語解説ではなくとも本文の方にルビがあるといいんじゃないかなと思いました。例えば「逓増型従量料金制」、そんなに難しい漢字はないですけど、あまり「逓増型」という言葉は使わないんじゃないかなと思いますし、こういうのはルビがあったらいいなと思いました。

用語解説（案）の4ページに「収益的収支」とありますが、ビジョン（案）の37ページでは「収益的支出」と「収益的収入」とに分かれています。「収益的収支」という言葉は37ページの中に無いので、分けて書いた方が分かりやすいんじゃないかなと思いました。

（会長）

事務局、いかがですか。

（事務局）

ルビに関しましては、どこまで振るかというところはなかなか難しいところがあると思いますが、固有名詞でなかなか馴染みのない部分であるとか、そういった箇所にはルビを入れる必要があると考えておりますので、御指摘を踏まえまして改めて整理させていただきます。

今回、資料を見ていただくに当たりまして、どの文言が用語解説（案）に出てくるかというのをお示しすれば分かりやすかったかなというところはございますので、そこは申し訳ございませんでした。この資料を公表する際は、五十音順で並べて表示をさせていただきたいと思っています。それに加えて、今回お示しさせてもらったように、どのページに初めて出てくるのかというところと併せて、最後に付録として付けたいと思っていますので、できる限りビジョンの本体と用語解説で中身を見ていただけるような形で整理したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

4 ページの「P F O A」と「P F O S」ですが、ともに英語の略称なので、正式名称を対応する日本語で入れてほしいです。「P F O A」が「ペルフルオロオクタン酸、Perfluorooctanoic acid」で「P F O S」が「ペルフルオロオクタンスルホン酸、Perfluorooctanesulfonic acid」でお願いします。

それから、7 ページの「ウォーター P P P」ですが、P P P も略語なので、これも同様に「Public Private Partnership、官民連携」と入れてください。

(事務局)

「P F O S」「P F O A」の正式名称を入れさせていただきたいと思います。また、「P P P」の部分についても、「Public Private Partnership」の記載がここにございませんで、併せて記載をさせていただきたいと思います。

(委員)

1 ページの「高度経済成長期」の解説のところに「G D P」とありますが、これも「国内総生産」と付けた方が分かりやすいのかなと思いました。

それと、用語解説（案）には無いですが、ビジョン（案）の 16 ページに「昭和南海地震」と書いてあって、そんなものがあつたのかと思いました。「約 80 年経過している」と書いてあって、調べたら 1946 年だったんです。約 80 年っていつかなと思ったので、それも記載があると丁寧かなと思いました。

(事務局)

G D P の表記については、文中に入れさせていただこうと思います。

地震に関しては、その他の地震もありますが、どこまで記載するかを含めて確認の上、分かりやすいような形になるよう考えたいと思います。

(会長)

用語解説（案）に関する意見は、今日この場限りというわけではなくて、数日間は受け付けますか。

(事務局)

用語解説(案)自体は意見として伺いたいというところがございますので、今週か来週前半くらいまでお受けすることは可能です。

(委員)

ビジョン(案)のことで気付いたことがあったので言わせてもらいます。

まず、13ページです。川のこと書かれていますが、ここで南前川のことにも触れたらどうかなと思いました。南前川も主要な川ですので。

それから22ページの寝屋川市の水道と茨田上水道組合の関係のところ、「昭和26年から25年間」とありますが、この「25年間」はどこから出た数字かなと思いました。

それと30ページに「老朽時の漏水リスク」とあります。「老朽時」という表現が、私はしっくりいきません。

最後に、34ページの図2-29です。河川を表す記号があるのに、図の中に河川が無いです。

(事務局)

本体に関しまして、パブリック・コメント手続済みでございますので、誤植等に関しましては後で個別にお伺いさせていただこうと思います。

(会長)

他に御意見ないですかね。

それでは、一旦出尽くしたようなので、御意見を踏まえて事務局で精査、御検討いただきたいと思います。

以上で、本日の案件全て終了となりました。最後に、その他として事務局から何かありますでしょうか。

(事務局)

今後の予定でございますが、表紙デザインや附属資料、各ページの章の見出し、挿絵等の装丁の部分など、整理をさせていただきまして、年度内の公表に

向けまして作業を進めていきたいと考えております。

また、完成したビジョンにつきましては、今回印刷物の作成はしませんが、市のホームページで公開させていただくとともに、委員の皆様には個別に印刷物を郵送させていただき、それをもって完成の御報告とさせていただきたいと考えております。

(会長)

他によろしいでしょうか。

それでは、最後に職務代理者から一言いただきたいと思っております。

(事務局)

それでは、私から一言御挨拶をさせていただきたいと思っております。

会長、副会長を始め、各委員の皆様、大変お忙しい中、御協力いただきましてありがとうございます。昨年7月から本日に至るまで、審議会で御議論をいただき、本当にありがとうございます。様々な御意見をいただく中で、パブリック・コメントを経て本日に至りました。多様な観点から御意見をいただきまして、それを反映した案ということで、市民の皆様にはより分かりやすい内容とすることができたものと私自身も自信を持って公表していけるものができるというように考えてございます。

パブリック・コメントの結果としては0件でございました。この0件というのは、一見すればあまり興味を持っていただけてないという結果分析もあるかと思っておりますが、私自身はそうではないと思っております。この審議会の中でも、当たり前にある水、水道であると思っていたというお話もいただきました。水道が当たり前で生活の一部である中で、こんなにいろんなことが考えられて、いろんな検討もされる中で、自分たちのところに届いているんだということを改めて認識する機会になったというような御意見もいただきました。そのことを振り返りますと、今回のパブリック・コメントの結果が0件だったということについては、市民の皆さんにおいては、水道は日常の一部であって、当然に自分たちの元に供給されるものであると、そう思っていたというところが表れた結果でもあるのかなと思っている次第です。

それを踏まえまして、私ども水道事業を担う者としましては、大きく2点思ったところがございます。1点目は、そういった中であっても、今回、審議会でも御意見をいただいたように、水道事業がいかにして成り立っているものなのか、あるいは、皆さんの元にどういう検討であったり、どういう考えであったり、どういう事業の下で届いているのかということについて、知っていただくための発信を、不断に努力していかなければならないと考えたところがございます。

もう1点は、市民の皆さんに思っていたいでいる当たり前、当たり前が届く生活の一部の水というものを、覆すことのないように、これまでどおり日常の一部で、何も心配要らずに届く安心の水なんだと、安心の事業なんだということを継続して思っていたいだけ、そういう事業であり続けるための努力をしていかなければいけないというように考えてございます。

今後、今回御意見をいただいて作成させていただいた水道事業ビジョンに基づいて、この2点をしっかり意識して取り組んでいくという決意を皆さんにお示しをさせていただきます。簡単ではございますが、私の御挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

(会長)

これでもう閉会になるんですが、昨年の7月から今日まで、この審議会を続けさせていただき、約半年間にわたって皆様お疲れさまでした。委員の皆さん、ありがとうございました。寝屋川市の皆さん、お疲れさまでした。コンサルの方もありがとうございました。

この委員会、ベテランの方もいれば中堅の方もいれば、若手の大学生まで参加して下さって、非常にバランスのよい委員構成だったかなと思います。この水道事業ビジョンが、PDCAサイクルで年次的に具体的なところはチェックされるということで、このビジョンはまた10年後に見直しになるのかなと思います。10年先のビジョンはなかなか分からないですが、10年経つとメンバーがどのぐらい入れ替わるのか、私もいないかもしれないですけど、またベテラン、中堅、若手の方が加わって、次の世代に変わっていったらなと思います。

寝屋川市はおそらく府の中で平均以上に人口減少とか高齢化とか考えないと

いけないところだと思いますし、全国的に水道管老朽化問題とかすごく心配なところなんですけど、反面、ロボットとかI o Tとかはますます発展しそうなところで、10年後、心配なところもあれば楽しみなところもあって、よりよい形で水道が次世代につながっていったらよいかなと考えております。

それでは、これをもちまして第6回審議会を閉会させていただきます。皆さん、大変お疲れさまでした。